

## 事前評価個表

整理番号	7
------	---

地域（地区）名	あぶくまがわ 阿武隈川	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	福島県	対象市町村	ふくしまし 福島市ほか 24 市町村
事業実施期間	R2 年度 ～ R6 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、県の中央に位置する「中通り」と呼ばれる地域で、福島市、郡山市、白河市、須賀川市、二本松市、田村市、伊達市、本宮市の 8 市と伊達郡の 3 町、安達郡の 1 村、岩瀬郡の 1 町 1 村、石川郡の 3 町 2 村、田村郡の 2 町、西白河郡の 1 町 3 村の計 25 市町村からなり、その総土地面積は 477 千 ha と県土の 35% を占める。森林面積は 272 千 ha で民有林が 180 千 ha（66%）、国有林が 92 千 ha（34%）となっており、うち民有林の人工林面積は 72 千 ha（人工林率 41%）で、人工林率は県平均を上回っている地域である。</p> <p>これらの人工林のうち、特に間伐が必要なⅢ～ⅤⅡ齢級の林分は、53 千 ha で人工林の 74% を占めており、間伐や主伐後の再生林などの適正な管理が急務であるが、林業採算性の悪化や、原発事故による放射性物質の影響により森林所有者の林業経営意欲は減退し、継続的かつ適正な森林整備が困難な状況となっており、水源涵養機能や土砂流出防止機能といった森林の有する公益的機能の維持や、森林資源の循環利用に支障をきたすことが懸念されている。</p> <p>このため、阿武隈川地域森林環境保全整備事業計画を策定し、森林の有する公益的機能の維持増進や森林資源の循環利用の拡大を図る為、間伐や主伐・再生林、路網の整備などを適切に実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：6,619ha</p> <p style="text-align: center;">（人工造林、樹下植栽等、下刈、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道開設）</p> <p>路網整備：林道開設 L=8,310m</p> <p>総事業費：3,335,863 千円（税抜き 3,032,602 千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C=5.55</p> <p>（総便益（B）=27,083,745 千円、総費用（C）= 4,877,852 千円）</p>
評価結果	<p><b>必要性：</b>本地区は、森林の有する公益的機能の維持や森林資源の循環利用の拡大を行う為、間伐、主伐・再生林等の適切な森林整備や路網整備等が求められており、事業の必要性が認められる。</p> <p><b>効率性：</b>費用便益分析の結果から十分な効率性が認められるとともに、本事業を活用した計画的な森林整備及び路網整備により、施業地の集約化や生産コストの縮減が図られることから、事業の効率性が認められる。</p> <p><b>有効性：</b>本事業の実施により、水源涵養や土砂流出防止等の森林の有する公益的機能の維持増進や高度発揮が図られるとともに、施業地の集約化や生産コストの縮減により、森林所有者の森林施業への意欲減退の歯止めに繋がることから、事業の有効性が認められる。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：福島県

地域(地区)名：阿武隈川<sup>あぶくまがわ</sup>

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,601,941	
	流域貯水便益	885,853	
	水質浄化便益	3,135,277	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,276,085	
環境保全便益	炭素固定便益	9,177,618	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	11,662	
	木材利用増進便益	7,259	
	木材生産確保・増進便益	5,831,217	
森林整備経費等縮減便益	森林整備促進便益	1,156,833	
総 便 益 (B)		27,083,745	
総 費 用 (C)		4,877,852	
費用便益比	$B \div C = \frac{27,083,745}{4,877,852} = 5.55$		

# 森林環境保全整備事業 阿武隈川地域(福島県)

